

みえ現場 de 県議会

多様な県民のご意見を県議会に取り入れる広聴機能を強化するための取り組みとして、「みえ現場 de 県議会」を平成22年度から開催しています。

今年度の第1回目は10月26日津市内で「もうかる農業への女性参画」をテーマに、県内で農業、畜産業、農産物加工業などに従事している女性11人と議員13人が参加し、女性の視点から地域の活性化に重要な農業を取り巻く現状や課題について発表し、意見交換を行いました。参加者からは、次のような意見がありました。

◎現場の思い

- ・楽しんで食べていけて自然の中で過ごせる農業はすばらしいと思う。「楽しむ」という要素を「もうかる」という計算の中に含めてほしい。
- ・生き生きとした自分たちの姿を見て、若い人が関心を持つてくれればと思う。

◎現場の課題

- ・自分たちも年をとり、今後高齢者がどのような農業に関わっていったらいいか。
- ・保健所の許可が一つの加工所につき一品目となっていて、県として緩和できないか。

◎女性農業者として

- ・農業委員として会議に出席したときに「なんだあなたが来たのか」と言われた。行政は男性が出るといふ思い込みがある。
- ・審議会などに参加し、仲間の女性や後継者を送りだすことに意義がある。

◎後継者不足について

- ・新規就農者が受けやすい補助金制度を作ってほしい。
- ・行政は国のマニュアルにとらわれすぎている。県、市町がもう少し柔軟であれば担い手も育つのではないか。

◎もうかる農業にするには

- ・商品を差別化して、値段だけ

ではない付加価値をお客さんが認めてくれればもうかる農業ができるのではないかと。若い人をどんどん育てるのがもうかる農業につながる。

立つて物事を考える習慣をつけるなど努力が必要であること、状況の変化に対し、その本質を洞察しながら機敏に対応し、自分たちも変わっていくという「応変力」を高め続けることが今後勝ち残っていくための鍵になることなどについて、ご自身の経験も踏まえてお話いただきました。

第6回三重県議会 トップセミナー

三重県議会トップセミナーは、議員の政策形成能力の向上を図り、県議会での政策議論の充実や深化につなげていくことを目的に開催しています。

第6回は株式会社東芝の会長で本県出身の西田厚聡氏から、「グローバル化時代の企業経営と地域振興」判断力を磨き、「応変力」を高める」をテーマに、ご講演いただきました。セミナーでは、グローバル化が加速する中、企業が抱える課題に対応していくためには、決断や実行以上に、その時点での最適な判断を下すことが最も大きな課題であること、判断力を磨くためにはステークホルダー（利害関係者）の立場に常に



株式会社東芝 西田厚聡会長

都道府県議会議員 研究交流大会

11月13日、東京において、全国の都道府県議会議員が集ま